〔地方だより〕

# 集中豪雨観測

松本　誠一

昭和45年度梅雨末期集中豪雨特別観測が7月5日から12日に至る1週間の期間に行なわれた．折しも小型ながらも非常に強い台風が接近しており，気象研究所の要請により早く観測開始の出来る地点は予定を繰上げて開始する措置がとられた．

今年の観測で従来と変った点は，特別高層観測が福江・長崎の2地点を民間依託としたことであろう．このため管区気象台ではたびたび関係者を派遣して遺憾のないよう配慮した．また高層観測要員を研修するなどの応援をしている．これらの努力が実って，観測は一応順調に終了したようである．予定の変更は民間依託の地点でトラブルなく行われ，民間の柔軟性が発揮される結果となった．一方高層強化観測を担当した気象庁の高層観測官署では，台風特別観測が7月4日03時から連続して行なわれ，一部重複して集中豪雨特別観測へ移行した．

今回の観測は，上記のように台風にかき廻わされたかの観があった．すなわち，沖縄地区を北上中の段階では，1）梅雨前線を北に押し上げて梅雨明けになってしまうか，2）昭和42年7月豪雨のように梅雨前線上で分裂して集中豪雨をおこすかなどの見方があった．事実は，500 mb 天気図に現われていた根強い南風に乗せられて北上する構えを見せながらも九州南方海上を北東進し，紀伊半島に上陸するや反転して日本海へ抜け，ここで西進するという複雑なコースをたどった．このため，今年初の台風臨時編成の構えは短時間のうちにゆるめられることになったが，台風進路決定のために果した名瀬・種子島レーダーの活躍はとくに見事であった．

観測期間中大雨が降ると，観測陣は難渋する．然し降らないのは逆に張合い抜けのするものである．難渋でも雨が降ってよい資料がとれてくれればよいというのが，観測者の心情でもある．とくに観測期間中の山場である飛行機（DC-8）観測の行なわれる7月7日の天気は気がもめた．レーダーの観測は連日24時間のフル回転で手ぐすねを引き張切って頑張っている．幸い前夜から当日早朝にかけて西方海上には多くの不気味なエコー群が発生してきた．例の台風が衰えて，済州島付近の上空寒冷うずにまき込まれる形となったのである．大雨注意報が長崎，続いて厳原に出された．予報官達はよい観測になったと我が事のように喜んだ．

台風の影響は当然船舶の観測にも及んだ．これよりさき，気象庁の誇る新造船啓風丸が博多港でレセプションの後，福岡管区の要請に基ずき梅雨前線の観測へ向けて勇躍出港した．これはルーチン観測としての処女航海であった．当管区としてはのどから手が出るほどほしい東シナ海のデーターが，取り決められた通りに入電するようになった．テレビ・ラジオの天気予報・解説にも「啓風丸の観測によれば」という言葉が出るようになった．天気図にまた高層チャートに，大きな比重をもって記入された．台風の接近により，管区でも船の動静を大いに気づかった．次の日の天気図を見て，啓風丸が西へ大きく位置を変えていることを知り，安心すると同時にその船足の早いことに改めて感心させられたことであった．この啓風丸が続いて集中豪雨特別観測のネットワークの中に入ったのである．

これらの仕事を通して，気象庁高層課・高層気象台・気象庁海洋気象部・気象研究所などの多くの方々と交歓する機会がえられたことは，大変有難いことであった．

—1970年8月21日受理—

販売についてのお知らせ

**PAPERS IN METEOROLOGY AND GEOPHYSICS**

（気象研究所研究報告）

上記印刷物は当学会において販売しております現在は第21巻1号が刊行されておりますが第14巻以降多少残部がありますから希望される方は日本気象学会事務局までお申越し下さい．

年4回　刊行　頒価　年額2,400円